

令和 6 年度小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 松友会	代表者	理事長 池田 佳子	法人・事業所の特徴	・法人グループ内で、グループホーム、特別養護老人ホーム等入所系施設があり、また居宅介護支援事業所、デイ、ショート等居宅系事業所もあり、総合的・継続的なサービスが提供できます。 ・事業所名である「オハナ」にはハワイ語で家族という意味があります。お互いに助け合うことをいとわない親しい友人や仲間のこともオハナと呼ぶことがあります。そうした関係性を大事にし、顔なじみのスタッフがご利用者個々のニーズに沿って柔軟な対応を行い、ご自宅、地域での生活をご支援します。また食事は施設内厨房で手作りし、季節にあった料理を提供しています。
事業所名	ピースフルライフ オハナ	管理者	山崎 琢磨		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	1 人	2 人	0 人	1 人	1 人	0 人	2 人	0 人	8 人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	法人内・外の研修へと参加していく。研修に参加した職員が講師役となり、事業所職員向けに研修を行う。前回に引き続き、リモート研修が行えるように環境整備を整える。	法人内の研修も再開され、スタッフ会議を通して介護技術への振り返りや研修に参加したスタッフによる講師役での事業所内研修などにより知識の共有は図れるようになってきた。しかし、外部研修へはアナウンス不足もあり、参加したスタッフは少なかった。	・事業所自己評価を説明していただき、良く取り組まれていると思います。（日常業務が忙しい中、自己評価のとりまとめ、話し合いなど大変だったと思います。	研修への参加意欲は高まって来ている。リモート研修への機会も増やし、職員が興味のある研修をリスト化し研修への参加を促していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	引き続き、クラスターの予防対策として環境整備と感染症対策を継続していく。地域の方や見学希望者が気持ちよく来訪できるようにしていく。	事業所内の清掃にとどまらず、事業所外の環境にも目を向けてきた。法人本部とも連携を図りながら感染症対策についても対策をとってきた。コロナやインフルエンザの感染が確認された際も速やかな対策により、収束させることができた。	・整頓され気持ちの良い環境になっていたと思います。 ・事業所内を見学させていただきましたが、居心地がよさそうな空間だと感じました。 ・母の話、送迎時に垣間見させて頂いている限りでは、居心地のよさそうな空間であり、玄関のオートロックなどセキュリティもしっかりされていると感じました。	感染症対策の継続と発生した際の感染予防対策の訓練を定期的に実施し、感染症が確認された際の速やかな行動がとれるように意識を徹底させていく。また、季節感ある装飾や事業所内電オイベントの様子などがわかりやすいように写真などを掲示していく。
C. 事業所と地域のかかわり	地域で行われている、防災訓練や防犯パトロールに参加し、地域での活動へ理解を深めていく。認知症カフェへもスタッフが参加していき、地域活動への知識を高め	防災訓練や防犯パトロールへの参加する事が出来た。しかし、オレンジカフェなどは参加したことがないスタッフもあり、スタッフが体験する機会を作る事が出	・地域の防災訓練や包括支援センターの実施している行事に参加されていたと思います。 ・事業所を地域の方により知ってもらうための取り組みをされて	地域ケア会議やオレンジカフェ、防災訓練や防犯パトロールなど地域での活動に参加していく。ボランティアの方も積極的に受け入れを行い、地域で活動されてい

	ていく。	来なかった。	いると思います。（事業所を訪れるスタッフの皆さんはとても感じよく対応をして下さいます。 ・送迎の際にスタッフの方々は皆さんとても明るく、優しくあいさつ対応して下さいます。また、困り事や相談がある時などは、電話ですぐに対応していただいているので大変助かっております。	る方々との顔の見える関係性を作っていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の方との情報交換を生かして、必要としている地域資源がどのような物なのか知る。地域にある社会資源をご家族に提供し自宅での介護への助けとなる様に情報の提供も行っていく。	就労されている介護者も多く、日中独居となるご利用者も増えてきたが、訪問による支援などで生活を支える事が出来たと考える。ケアマネや管理者が外部研修にも参加したために社会資源などの情報提供も行いう事が出来た。	・地域の方との情報交換は運営推進会議で行えているので生かしていると思います。（小規模のサービスだけでは生活が支えられないと思うので地域の社会資源を活用していると思います。） ・母の事や事業所からのイベント開催チラシなどで、イベントが開かれたこと、外出したことなど把握しております。	地域資源やインフォーマルサービスについての把握は十分に出来ていない。事業内での会議をとおして、研修会を実施していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議での情報の共有により、地域に向けて事業所の役割を知ってもらう機会としていく。地域活動を把握していき参加していく。	地域の方がラジオ体操などを通じて来所して頂ける機会は増えてきたが、見学など事業所内を見て頂くなどの活動には至らなかった。	・報告や取り組みが良く出来ていると思います。 ・運営推進会議では事業所の取り組みがよくわかります。（運営推進会議で意見交換できていると思います） ・今回、初めての運営推進会議に参加させて頂き、事業所が外部や地域の方々と定期的に情報・意見交換されていることを理解しました。	自治会・地域の活動などの情報をもとに、オハナの地域活動への参加や、地域の方からの相談などを受けられるようにしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	実際の災害を想定した訓練を行っていく。市内のハザードマップにて危険個所の共有を図る。各職員の通勤ルート上の危険区域をそれぞれが把握する。	年２回の避難訓練は実施したが、昨年８月に発生した豪雨災害時には送迎ルートやスタッフの人員確保が難しく訪問などへの切り替えによりご家族やご利用者にご迷惑をかける場面があった。	・地域の防災訓練に参加されていて災害時に頼りになります。 ・防災訓練には参加したことが無かったので今度機会があれば参加できればと思います。（事業所のBCP計画について運営推進会議で知れるといいかと思いました。）	BCPに沿った避難訓練・災害時訓練の実施。昨年の豪雨災害での経験を生かした、緊急時の送迎ルートの共有を図っていく。

			・今回の会議中に防災訓練の話をしていて、熱心に取り組んでらっしゃると感じました。	
--	--	--	---	--

